

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

子

世の中のことまだしらぬうなる子も時にあひたる遊をぞする

明治三十八年の御製である。その「時にあひたる遊」を見そなはせられたのが、さういふ遊であつたかは、あらためて考ふるまでもない。今日の子どもの遊も同じく、戰國遊戯であつた。たゞ日露戰爭當時は、今日の大東亞戰爭下は、異なるところが、戰車、飛行機、爆彈投下、落下傘、航空母艦、特殊潛航艇、それからまた、防空演習、防空壕ごっこ。思へば、子どももの「いくさごっこ」も、大層な變り方であるが、「時」にあへる點に於ては同じである。御製はまことに今日の御製か、謹誦せられる位である。御製の御ころを、廣く解し奉れば、兒童遊戯の一般の特質、兒童心理の一つのあらはれを、御詠あそばされたものである。しかし、狭く解し奉ることを御許しいたゞくすれば、子どもさへその遊に、國の大事を反映してゐることを、御感深く詠せさせ給ふてあるのなからうか。

畏れ多い申しやうの極みであるが、當時にあつて、天皇の御心は、對露戰爭のこころを以て充ちてゐらせられた。即ち、世俗の言葉ですれば、見るもの聞くもの、一切、事毎に時局に結びついて、御感あらせられたを拜し奉る。ふみ御目にままつた子ども

の遊に、おゝこのうなる子らまでが、この御製になつたものではあるまいか。御製の中に、この他にも子どもの遊を御題せられたものがある。子どもの遊の、あの生活詩そのまゝを、美しき詩そのものとして詠せさせ給ふた、有り難い御製のいくつかを拜する。しかも、この御製では、それと同時に、幼兒は幼兒のまゝにもつ國事への關心を、御心の中にこめさせられたことではあるまいか。少くもわれらは、「世の中のことまだしらぬ」ながら、國の時局の重大さは、はつきり心に感じてゐる幼兒等を、この御製の謹誦によつて、あらためて見なほさせていたゞくものである。

(倉橋惣三謹誦)